

公園を核とした都市農村交流「～ ことのごプロジェクト ～」

平成 23 年 9 月 26 日

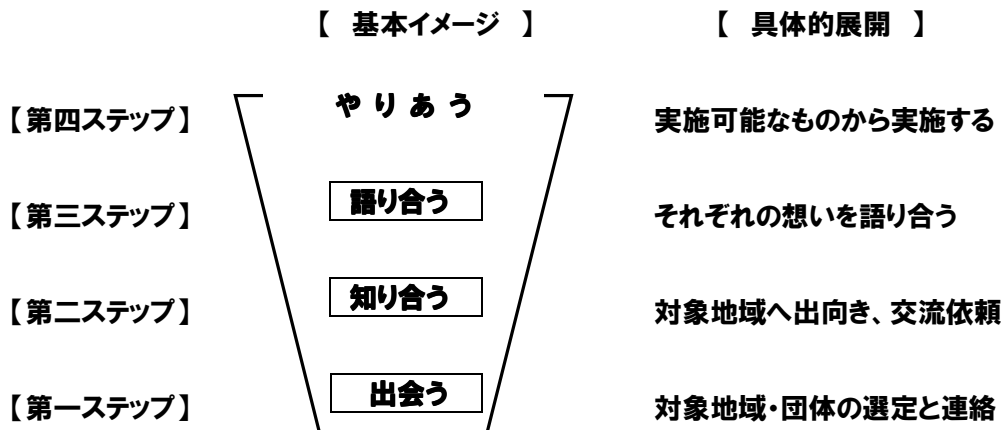
目的

人が集う場所を公園(おおやけのその)と設定し、公園に人を集め、農村地域・都市地域相互に交流を促す。さらに、交流活動を通して地域間のつながりを結び、深める。また、この交流が地域経済の活性化の一因になるよう農家(事業主体)・行政・地域住民の連携を密なものにしていく。

対象地域

福岡県内の都市地域とその周辺の農村地域を計画中

実施方法



基本的留意点(公園活用研究会「まいぱく」の軸足)

①公園を活用すること

従来の都市公園だけではなく、人が集う広場という意味で公園を使用する。

②まちづくり地域づくりに貢献すること

閉じたつながりによる都市農村交流になることなく、地域と地域が交流する橋渡しをすること

また、それに見合った交流となること

※「ヒトモノカネ情報」の交流を促進する

具体的展開案

・対象地域探索

→公園活用研究で培ってきた調査視点を活かし、対象地域を探索し、公園調査や公園候補地の調査

・対象地域に人が集う仕組みの展開

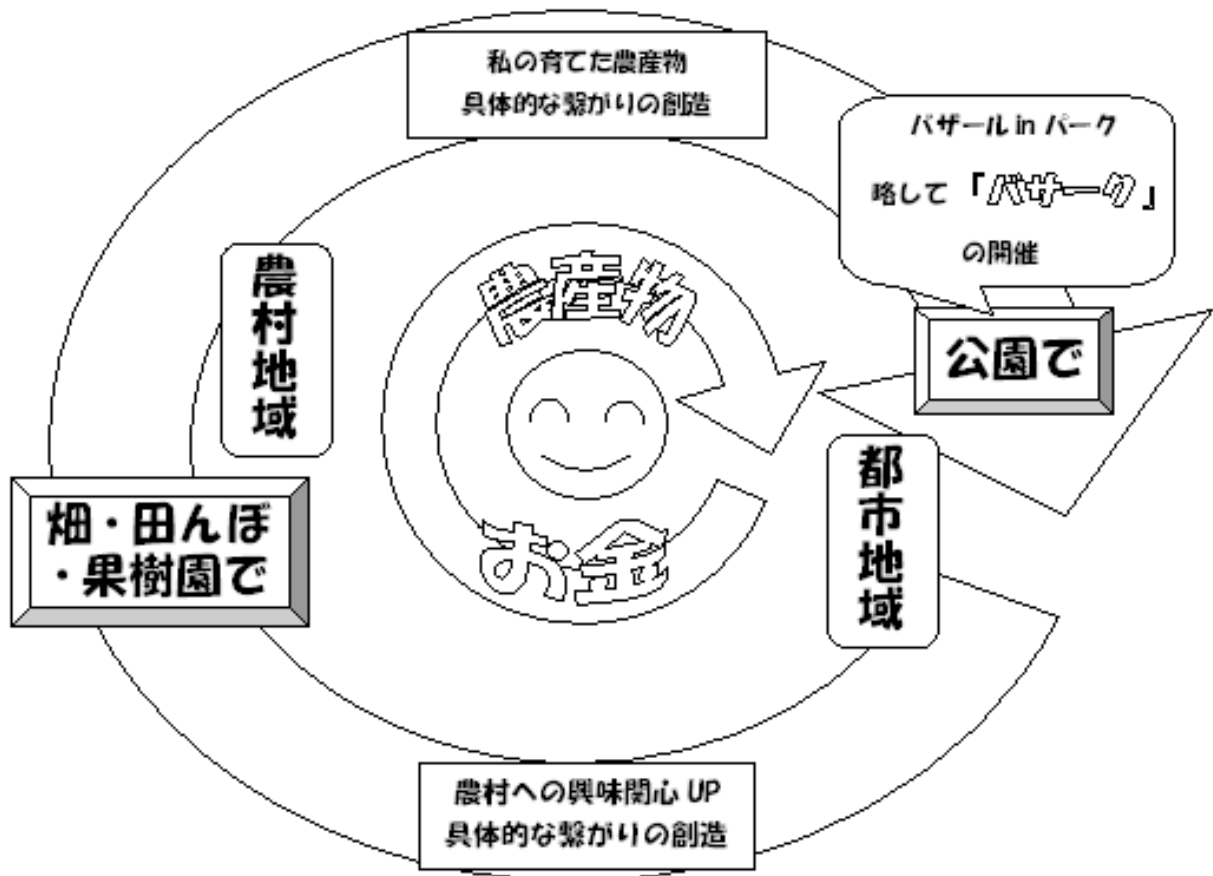
→公園づくりや公園利用のワークショップ ※従来の公園にとらわれず、私有地についても検討

・大きな公園を活用し対象地域からのバザール(市)の開催

→公園×農産物を通して地域交流 ※公園の使用許可の問題と集客の問題

ことこのプロジェクト第一弾企画

公園 × 農産物 × 都市農村交流 バザール in パーク



Hard

- 【場】「屋根つき施設」(東屋)(簡易テント)
「農産物置く台」(簡易机)(ベンチ)
- 【箱】「コンテナ」(大 → テント、机収納)
(小 → 農産物入れ)
- 【駐】「駐車場」(住民用)(農家用)

Soft

- 【都】「マージンをとる」(自治会 / NPO)
→ 【新たな自治の形の創造】
- 【伝】自治会の回覧板の活用
- 【農】「出荷時間、価格、数量の決定」
→【農家の経済的自立促進】